

## soft-shelled Foraminifera: その地球生命史における意義

### Soft-shelled Foraminifera: their meanings in Geobiology

# 北里 洋[1]

# Hiroshi Kitazato[1]

[1] 海洋研究開発機構・IFREE

[1] IFREE, JAMSTEC

<http://www.jamstec.go.jp/>

有孔虫類は、海成原生生物である。砂質、石灰質の殻を持ち、顕生代以降の地層から多産する。殻形態が周囲の環境や時代と共に大きく変化することから、示相化石あるいは示準化石として有用である。

一方、キチン質やゼラチン質の殻を持つ有孔虫が、おもに深海底に分布する。固い殻を持たないことから、soft-shelled foraminifera と呼ばれる。硬い殻を持たず、全長 50~100 ミクロンと小さいことは、貧栄養で捕食者が少ない環境に適応していると考えられる。分子系統から、このグループは 8~10 億年前に、共通祖先から分岐したと考えられており、有孔虫のうちもっとも原始的な系統群である。

原生代後期 (5.4~10 億年前) の地層から、所属不明の微化石が多産する。浮遊生物のツリガネムシの仲間であると考えられてきたが、soft-shelled foraminifera との形態的な類似性が高く、おそらく soft-shelled foraminifera に所属するグループの化石である。

本講演では、soft-shelled foraminifera の解剖学的な特徴を紹介すると共に、地球史に於ける意義について議論する。